

男女共同参画シリーズ その2

最終回「Diversity and Inclusionへ向けて」

Series 2 final "Toward Diversity and Inclusion"

1 はじめに

「男女共同参画シリーズ その2」では、各地域本部で活躍されている女性技術士と技術士補から、日頃の活動や、ライフスタイル、男女共同参画への思いについて自由に語っていただいた。

女性会員の活躍は技術士の知名度向上にも大いに役立っている。本シリーズの最終回にあたり、本シリーズの内容と当委員会の活動及び今後について概括する。

2 男女共同参画シリーズ その2

2016年10月から2018年6月までの10回の連載からは、様々な領域でリーダーシップを発揮し活躍されている姿が伝わってくる。

全てはご紹介できないが、東北、北陸、北海道本部からは学会活動などとの連携や勉強会などを通じた女性同士の交流、中国、四国、近畿本部からは地域での「技術サロン」の展開や技術者育成活動への参画、九州及び統括本部からは上司としての視点と女性技術者支援、中部本部からは育休中の技術士取得についてそれぞれご報告いただいた。

励まされた女性会員や、Diversity（多様性）について新たな気づきを得た会員も多いと思う。

3 男女共同参画推進委員会の活動

男女共同参画推進委員会（委員18名、委員補佐9名、女性比率71%）は、三つの活動ユニットから構成され、共通活動を含め様々な活動を行っている（図1）。

女子学生や女性技術者の支援を目的とした「技術サロン（年4回）」は、2018年6月16日で第38回を数えた。毎回、全国から女子学生や女性技術者が集まり、委員・委員補佐との間で本音のやり取りが行われている。

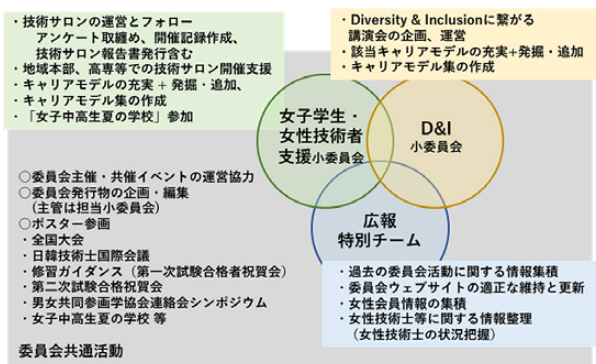


図1 H30年度 男女共同参画推進委員会の概要

2018年5月19日には、「技術者と働き方改革」フォーラムを開催した。多様な人材の働き方改革をテーマに、様々な人が生き生きと働く職場を作る役割「イクボス」を議論した。最後に参加者それぞれが「イクボス・働き方改革宣言」を行い、今後の取組みを確認し合った（写真1）。



写真1 イクボス宣言例 - 2018年5月19日「技術者と働き方改革」フォーラムより

他にも先輩諸氏から受け継がれた様々な活動実績がある。委員会のWebページをアクセスし、その内容を是非ご確認ください。

https://www.engineer.or.jp/c_cmt/danjiyo/

委員・委員補佐の真摯な活動は外部の評価も高い。103の学協会（オブザーバ含む）からなる「男女共同参画学協会連絡会」では、第19期（2020年11月～2021年10月）の幹事団体を担当させていただく予定である。日本技術士会は、多数の技術者を擁する組織として期待されている。

4 無意識のバイアス “Unconscious Bias”

「無意識のバイアス」をご存知だろうか。このバイアスは、誰もが持っているものであり、それを自覚することで弊害を抑えることができる¹⁾。

無意識のバイアスは、色々な判断を行う際に、便利なショートカットの役割を果たしてしまう。いつそれが現れるかを知ること、評価や判断への影響を最小限に抑えることができる。

産業や社会基盤へのAI応用が盛んである（スマート社会の実現あるいは第3次AIブーム）。深層学習（Deep Learning）や統計学的手法が様々な情報システムに適用されつつある。その時、どのように無意識のバイアスが情報システムに実装されてしまうのか。その影響をどのように回避するのか。“意識のない”AIに代わり、設計開発に携わる技術者が無意識のバイアスを意識すべきなのだろう。また、自動走行のように社会受容性が不可欠の分野では、技術者はDiversityへの洞察が求められる²⁾。深く難しいテーマである。

5 Diversity and Inclusion (D&I)

Diversity以上にInclusion（包摂、包含）は広い概念のようだ。色々な文脈の中に現れる。

社会福祉の視点では、今日的な「つながり」の再構築から、全ての人々を社会の構成員として包み支え合う「ソーシャル・インクルージョン³⁾」がある。企業の組織力に関しては、「The Inclusion Breakthrough - Unleashing the real power of diversity⁴⁾」に多様性を活かした組織改革が述べられている。最近、AIに関するInclusionのシンポジウム「AI and Inclusion」がブラジルのリオで開催された⁵⁾。AI技術が創造する未来社会での、技術者・研究者・学協会が果たすべき役割が議論されている⁶⁾。

当委員会は2017年度から、指導的立場に立つことが多い技術士（イクボス）向けに、自組織のInclusionの推進をお手伝いしている。会員の実業務におけるD&Iが、日本技術士会のさらなるD&Iにもつながれば幸いである。

6 まとめ

技術士にとってD&Iとは、イクボスの実践だけでなく、高度な科学技術を応用する際の公益や社会受容性への配慮など、技術者倫理にも関係する重要な概念である。

男女共同参画推進委員会にはD&Iに関する知見が集まりつつある。今後も委員会活動を通じて、皆様と共にD&Iを考え実践していきたい。

広報委員会にご協力いただき、男女共同参画推進委員会D&I活動の一環として、「男女共同参画シリーズ その3」の企画が進んでいる。

性別・年齢・専門分野・感性の多様性を組織の力に変える、イクボス・イクメンの皆さんに登場いただく予定である。多様な人が働きやすい職場への変革、特にマネージャの意識と行動改革に焦点をあてた連載となる。ご期待いただきたい。

<参考文献>

- 1) 男女共同参画学協会連絡会：無意識のバイアス -Unconscious Bias- を知っていますか？, 2017/8
- 2) 日本技術士会倫理委員会：AI技術と倫理～自動運転の倫理問題～（第10回技術者倫理シンポジウム）, 2018/5/21
- 3) 厚生労働省：「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書, 2000/12/8
- 4) Frederick A.Miller and Judith H.Katz：The Inclusion Breakthrough - Unleashing the real power of diversity, 2002/6/15
- 5) The global Network of Internet and Society Centers (NoC)：AI and Inclusion Global Symposium, 2017/11/8-10
- 6) 江間有紗：AI社会のデザイン 誰と何をどう議論するか（日本工学会技術者倫理協議会第13回公開シンポジウム）, 2017/11/20

林 雅弘（はやし まさひろ）

技術士（情報工学部門）

男女共同参画推進委員会副委員長
日本技術士会理事、林技術士事務所
e-mail：hayashi@keb.biglobe.ne.jp

